

## ② 企業などと連携して、実習・演習等を実施

	4月	7月	10月	1月
1年次	商業簿記・工業簿記	ストアオペレーション、マーケティング	接客・販売実習 (10月～12月、85時間)	パソコン基礎知識
2年次	インターネット流通概論、Excel実習等		マーケティング実習 (8月～2月、210時間)	(総授業時数 1,700時間)

「接客・販売実習」「マーケティング実習」  
《商業実務分野》

**1. 企業と学校の打ち合わせ**

- ・実習目標、評価方法等の確認。
- ・実習に関する覚書の締結。

実習内容について覚書締結

販売実習実施に関する覚書

学校法人 学園 (以下「学」とする)は、本学園が認定・運営サービスコース、ファッション系履修ビジネスコース、総合キャリアコースの学生を対象として、販売実習を実施する。この販売実習について、株式会社 (以下「社」とする)と下記のとおり合意する。

1. 対象学生 販売・接客サービスコース  
ファッション系履修ビジネスコース  
総合キャリアコース 1年次 77名

**2. 企業からの講師派遣による事前研修・講義**

- ・学生に対し、企業の実習担当者から事前研修・講義。

**3-1. 販売実習**

- ・企業の実習担当者の指導の下で、接客・販売の実習。

**3-2. マーケティング実習**

- ・店舗見学を実施し、地域特性を考慮した収益UPの企画等を立案。

**4. 実習日誌の記録を通じた進捗確認と教育指導**

- ・生徒は、その日に受けた指導内容、自己評価を記載。定期的に学校の教員が確認し、必要な研修等を実施。

販売実習報告書

**5-1. 教員による店舗訪問**

- ・学校の教員が実習先を訪問し、実習態度を確認。
- ・学生の課題を企業の実習担当者と共に共有、指導。

**5-2. マーケティングコンテスト**

- ・実習成果の発表の場として、コンテストを実施。
- ・企業の実習担当者等と学校の教員による評価。

**6. 成績評価・単位認定**

- ・事前に打ち合わせた基準に基づき、企業の担当者が評価。
- ・企業による評価に基づき、学校の教員が成績評価、単位認定。

成績評価・単位認定

	1年次	2年次	10月	1月
1年次	ホテル総論、外国語コミュニケーション、ITスキル		業界ガイダンス	ホテル実習 (10月～1月、400時間)
2年次	外国語コミュニケーション、サービス実務		接客外国語、マネジメント理論、異文化理解	企業ガイダンス (総授業時数 2,166時間)

「ホテル実習」  
《文化・教養分野》

**1. 「企業連携委員会」により実習に関する打ち合わせ**

- ・企業や業界団体のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定。

委員会開催

**2. 企業からの講師派遣による事前研修・講義**

- ・学生に対し、ホテルの実習担当者から事前研修・講義。

**3. ホテル実習**

- ・ホテルの実習担当者の指導の下で、接客等の実習。

**4. 実習先及び学内で実習の進捗確認と教育指導**

- ・教員による実習先訪問や、学生による実習の週間報告、月間報告を教員が学内で確認することで、必要な研修等を実施。

**5. ホテルの実習担当者による評価**

- ・学生が実習で修得した知識、勤務態度、接客態度、習熟度等を総合評価。

**6. 成績評価・単位認定**

- ・ホテルの実習担当者による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定。

成績評価・単位認定

	1年次	2年次	10月	1月
1年次	電気基礎理論、電気工事方法		電気演習習・電気実験・電気製図	電気工事実務 (10月～3月、90時間)
2年次	設備工事、設備技術			先端施工技術 (総授業時数 2,070時間)

「電気工事実務」  
《工業分野》

**1. 「企業連携委員会」により実習に関する打ち合わせ**

- ・実習の目標、進め方、評価方法等について決定。

委員会開催

**2. 企業と連携した教材開発**

- ・実習で使用する教材について、教員が企業から技術供与を受けながら、最新の業務に必要な知識・技術・技能を反映。

イチから理解する  
太陽光発電  
—電気理論編—

**3. 企業からの派遣講師による授業**

- ・業界の最新動向を踏まえた実践的な講義・演習を実施。

**4. 企業による習熟度確認**

- ・企業が作成した試験問題を活用し、教員が習熟度を確認。

**5. 企業と連携した実習**

- ・太陽光発電設備を利用した企業の実習担当者による実習等を実施。

**6. 成績評価・単位認定**

- ・企業の実習担当者による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定。

成績評価・単位認定

	1年次	2年次	3年次
1年次	コンピュータ基礎、デザイン・デッサン基礎	プログラミング基礎演習・グラフィック基礎演習	進級制作実習
2年次	日本ゲーム大賞制作実習 (4月～6月、420時間)	日本ゲーム大賞制作実習 (7月～8月、100時間)	日本ゲーム大賞制作実習 (11月～1月、180時間)
3年次	日本ゲーム大賞制作実習 (4月～6月、420時間)	日本ゲーム大賞制作実習 (7月～8月、100時間)	卒業制作実習授業 (総授業時数 3,120時間)

「IT・ゲーム作品制作実習」  
《工業分野》

**1. 「企業連携委員会」により実習に関する打ち合わせ**

- ・実習の目標、進め方、評価方法等について決定。

実習内容について覚書締結

（株）△△ゲームス  
開発クリエイター  
学生作品評価  
開発系授業  
OOOコンピュータ専門学校  
学生  
教員

**2. ゲーム企業からの派遣講師による企画指導**

- ・ゲームの企画方法を実務の経験に基づき指導。
- ・企業からの派遣講師と教員による評価、指導を実施。

**3. ゲーム企業からの派遣講師による中間評価**

- ・学生による中間発表。
- ・企業からの派遣講師と教員による評価、指導を実施。

**4. 最終プレゼンテーション**

- ・企業からの派遣講師により、ゲーム作品のコンテスト提出前に最終確認を行う。

**5. ゲーム企業からの派遣講師による実習授業**

- ・企業からの派遣講師が最新の技術・技能を生徒に指導。

**6. 成績評価・単位認定**

- ・企業からの派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定。

企業からの派遣講師による評価  
+  
学校の教員による評価  
→  
学生成績評価  
プログラム A  
グラフィック B  
企画  
...

### ③ 企業等との連携による教員の研修機会の確保の具体例《工業分野》

企業等との連携による実践的かつ専門的な知識・技術・技能や、指導力の修得・向上のための組織的な研修機会を確保。

#### 最新の知識・技術・技能

- 「電気工事技術教育課程編成委員会」を設置し、年2回会合を実施し、最新の技術や業界の動向などを把握の上、専門課程の研修計画を改善し、必要な研修を実施。
- 例えば、太陽光発電装置の施工は、技術革新が早い分野であるため、新技術が開発される毎に、職能団体の研修を受講させる。



#### 的確な指導力

- 教育の専門家を招いて、授業の進め方やカリキュラム、シラバスの作成方法などに関する研修を実施。
- 例えば、学期（前期・後期制）毎に「教職員による授業評価」と「学生による授業評価」を最低1回実施し、学科長から個々の教員に結果を示しつつ、改善すべき点を指摘し、必要な研修を受講させる。



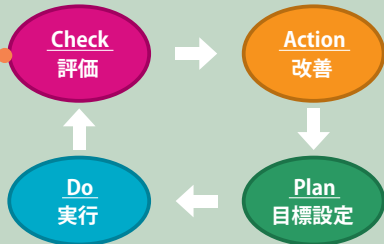
### ④ 企業等との連携による学校評価のイメージ

#### 学校関係者評価

#### 自己評価

##### 教職員による評価

学校の理念・目標に照らして、自らの教育活動を評価



学校は評価結果を踏まえた学校運営の改善方策等の検討においていかす

#### 外部アンケート等

生徒・卒業生・保護者、企業・関係施設、業界団体、自治体等を対象に行うアンケートを、学校評価の資料等に活用

#### 学校が選任した「学校関係者」で構成された学校関係者評価委員会による評価

自己評価の結果について、「学校関係者」が評価

企業等の「学校関係者」による学校訪問や意見交換等を通じて、自己評価結果について評価

「学校関係者」は、教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高める今後の学校運営の改善のための助言等を行う

#### 学校へ報告

「学校関係者」による自己評価の評価結果についてとりまとめ・公表

#### 「学校関係者評価委員会」構成員（例）

- ○ △△専門学校卒業生
- ○ 生徒保護者
- ○ ▽▽高等学校校長
- ○ ××商業協会事務局長
- ○ □□商社人事部長
- ○ ◇◇商業販売部長

「職業実践専門課程」には、特に学校関係者評価において企業等の委員の意見の活用状況を求める

## ⑤ ホームページにおける情報提供

職業実践専門課程として認定された専門学校は、原則として学校のホームページに指定の様式を掲載し、情報提供をおこなう。

※指定の様式には、学校の基本情報や認定要件の実施状況、カリキュラムの概要等が記載されています。

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地
			〒 (電話)
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地
			〒 (電話)
目 的			
課 程 名	学 科 名	修 業 年 限 (昼・夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数 (又は単位)
			専 門 士 の 付 与 高 度 専 門 士 の 付 与
教 育 課 程			
講 義	演 習	実 験	実 習
単 位 時 間 (又は単位)	単 位 時 間 (又は単位)	単 位 時 間 (又は単位)	単 位 時 間 (又は単位)
生 徒 総 数			
生 徒 総 数	専 任 教 員 数	兼 任 教 員 数	総 教 員 数
人	人	人	人
学 期 制 度	成 績 評 価	備 考	
■ 1 学 期 : ■ 2 学 期 : ■ 3 学 期 :	■ 成 績 表 (有・無) ■ 成 績 評 価 の 基 準 ・ 方 法 に つ い て		
長 期 休 み	卒 業 ・ 進 級 条 件		
■ 学 年 始 め : ■ 夏 季 : ■ 冬 季 : ■ 学 年 末 :	■ 課 外 活 動 ■ 課 外 活 動 の 種 類	■ 課 外 活 動 (有・無)	
生 徒 指 導	課 外 活 動	課 外 活 動 の 種 類	
■ 学 生 担 任 制 (有・無) ■ 長 期 欠 席 者 へ の 指 導 等 の 対 応		■ 課 外 活 動 (有・無)	
主 な 就 職 先	主 な 就 職 先 ・ 業 界	主 な 資 格 ・ 検 定	
■ 就 職 率 %			
中 途 退 学 の 現 状	中 途 退 学 の 理 由		
■ 中 途 退 学 者 名 平成 年 月 日 在 学 者 名 (平成 年 月 入 学 者 を 含 む) 平成 年 月 日 在 学 者 名 (平成 年 月 卒 業 生 を 含 む)	■ 中 途 退 学 の 主 な 理 由 ■ 中 途 退 学 止 め の た め の 取 組		
ホ ー ム ペ ー ジ	URL:		

(〇〇専門課程〇〇学科) 平成〇〇年度		授業科目名	授業科目概要	配 置 年 次 ・ 学 期	単 位 数	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	授 業 方 法
必修	選択								
1. 教育課程の編成 (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針) (教育課程編成委員会の全委員の名簿) 平成〇〇年〇月〇日現在									
名 前		所 属							
(開催日時) 第1回 平成〇〇年〇月〇日 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 第2回 平成〇〇年〇月〇日 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 第3回 平成〇〇年〇月〇日 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇									
2. 主な実習・演習等 (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)									
科 目 名		科 目 概 要		連 携 企 業 等					
3. 教員の研修等 (教員の研修等の基本方針)									
4. 学校関係者評価 (学校関係者評価委員会の全委員の名簿) 平成〇〇年〇月〇日現在									
名 前		所 属							
(学校関係者評価結果の公表方法) URL:									
5. 情報提供 (情報提供の方法) URL:									

## ⑥ 「職業実践専門課程」における教育活動の流れのイメージ

「職業実践専門課程」においては、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、特に職業に関連した企業・業界団体等その他の関係機関との密接な連携による、教育課程の編成、演習・実習等の実施、教員の研修等の実施、学校評価の実施等の一連の教育活動を通じ、実践的な職業教育の質の保証・向上に組織的に取り組む。

### <教育活動の流れのイメージ>

